

2 橋梁諸元

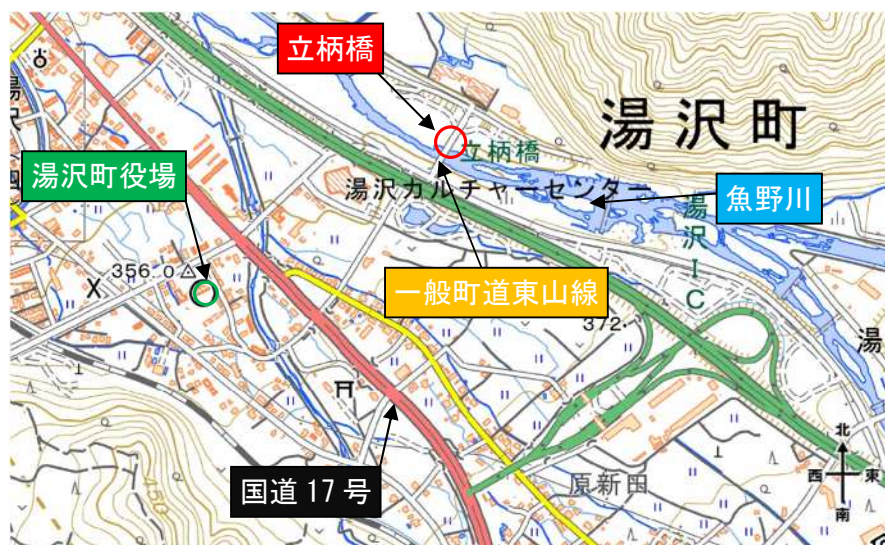
2-1. 橋梁の概要

(1) 橋梁の概要

一級町道東山線に架橋されている立柄橋は、平成 7 年に架橋された PC3 径間連続中空床版橋である。第 3 径間は床版張り出し部が拡幅されおり RC 箱桁構造となっている。

また、本橋は主桁上床版内に融雪装置（ロードヒーティング）が設置されているが、現在は使用されておらず凍結防止剤が散布されている状況である。（発注者からの情報提供）

(2) 位置図



出典：国土地理院 地理院地図

(3) 状況写真



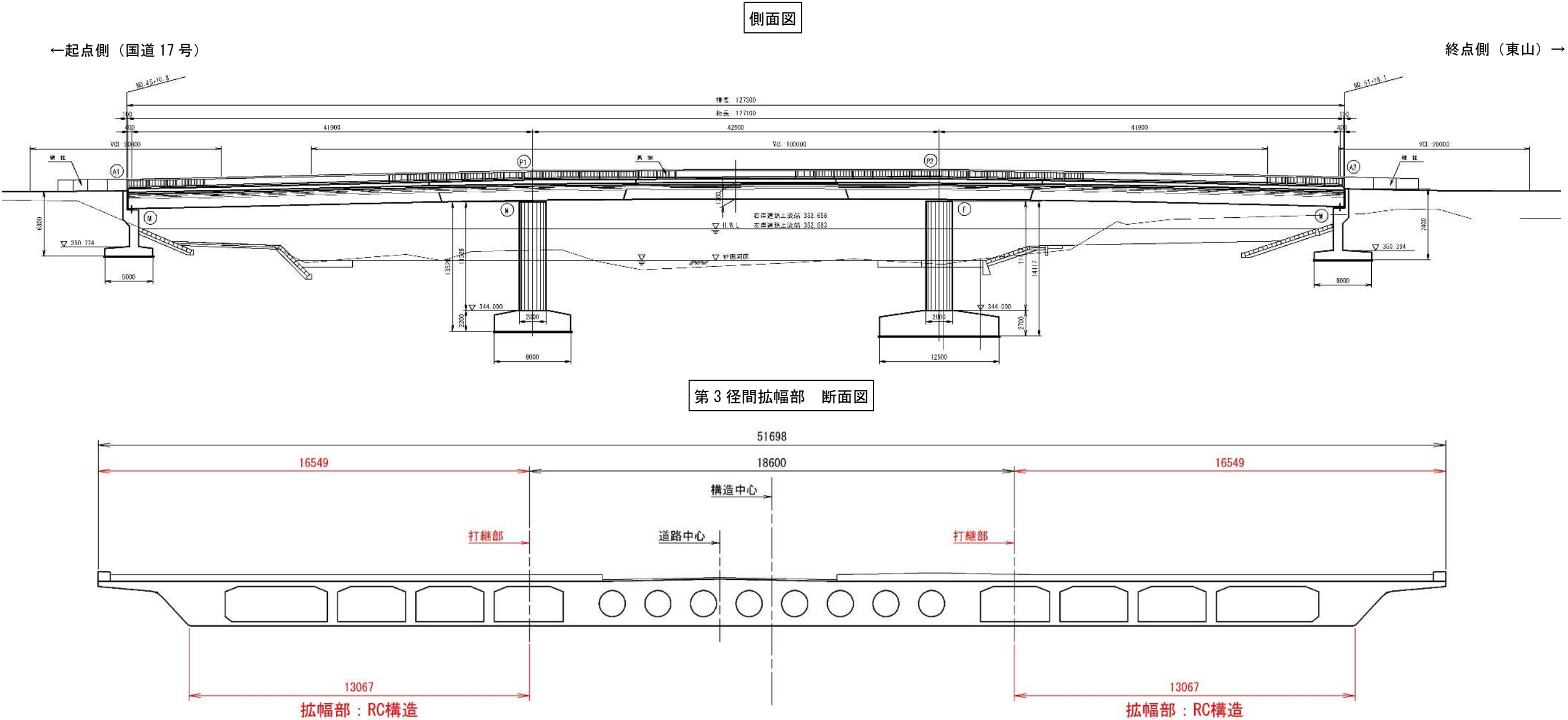
図 2-1 状況写真

2-2. 施設諸元・補修履歴等

橋梁諸元及び補修履歴

路線名	一級町道東山線	準拠示方書	H2道路橋示方書
橋梁名	立柄橋	交通量	不明
橋長	127.3m	大型車交通量	不明
幅員	全幅員：20.8m 車道幅員：9.00m	交差条件	一級河川 魚野川
橋梁形式	PC3径間連続中空床版橋	海岸線からの距離	54.70(km)
竣工年次	平成7年(1995年)	凍結防止剤の散布	あり
橋格	TL-20（一等橋）	補修履歴	なし
点検年度、補修設計等	H21定期点検、H25詳細調査、H26補修設計、H30定期点検、R5定期点検		

橋梁一般図



2-3. 既存資料の整理

(1) 令和 5 年度橋梁定期点検結果

令和 5 年度橋梁定期点検結果では、第 3 径間主桁下床版の打ち継ぎ部付近において遊離石灰を伴うひびわれ（C2 判定）が複数確認された。前回点検（H30）よりひびわれ幅や本数の変化はみられないがひびわれ及び打ち継ぎ部においてさび汁の範囲や量が増加しているため損傷は進行している。

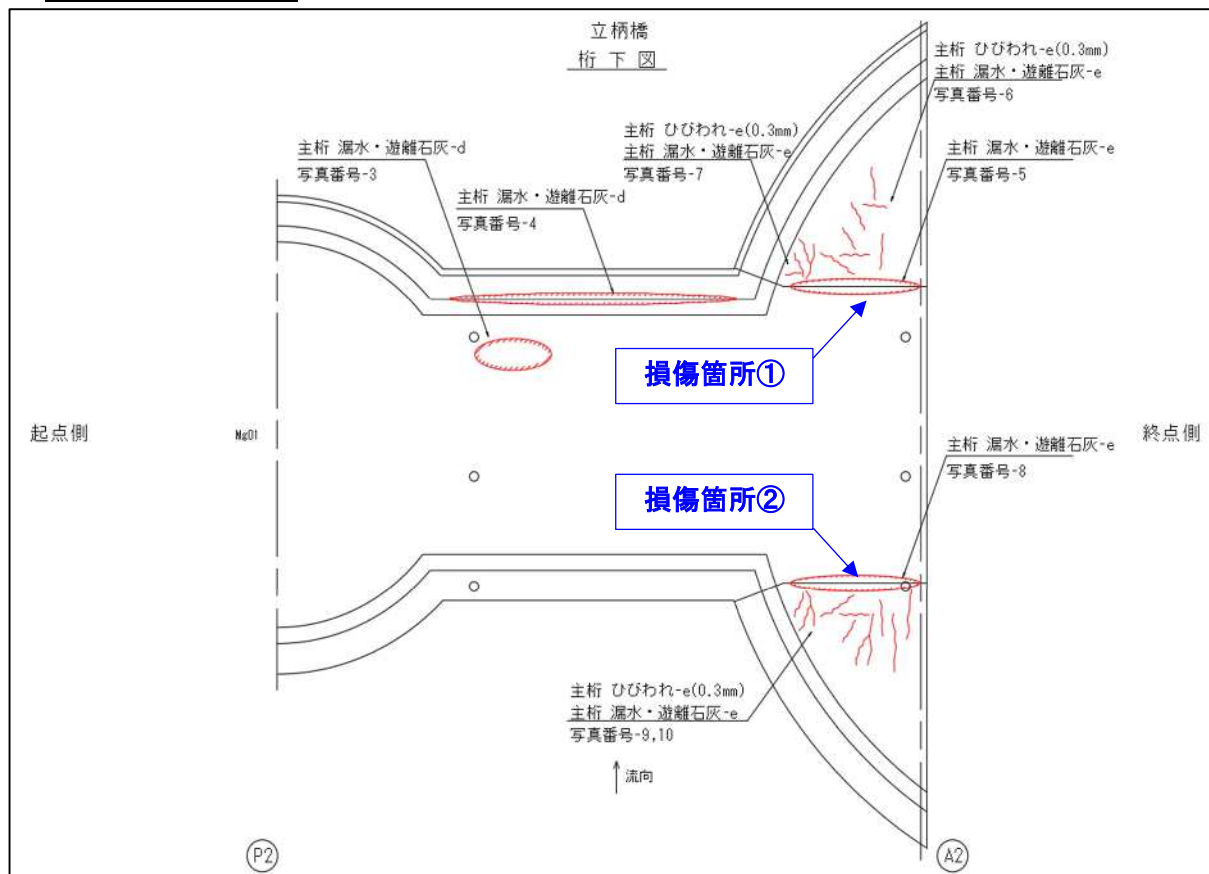


図 2-3-1. 令和 5 年度定期点検 第 3 径間損傷図



写真 3-1-1. 第 3 径間下流側



写真 3-1-2. 損傷①



写真 3-1-3. H30 損傷①



写真 3-1-4. 第 3 径間上流側



写真 3-1-5. 損傷②



写真 3-1-6. H30 損傷②

(2) 平成 25 年度詳細調査結果

平成 21 年度橋梁定期点検結果を踏まえ、床版ひびわれと漏水・遊離石灰に着目した詳細調査が平成 25 年度に実施されている。箱桁内部の内視鏡調査及びコア採取を実施し劣化損傷状況が確認されている。調査結果を以下に示す。

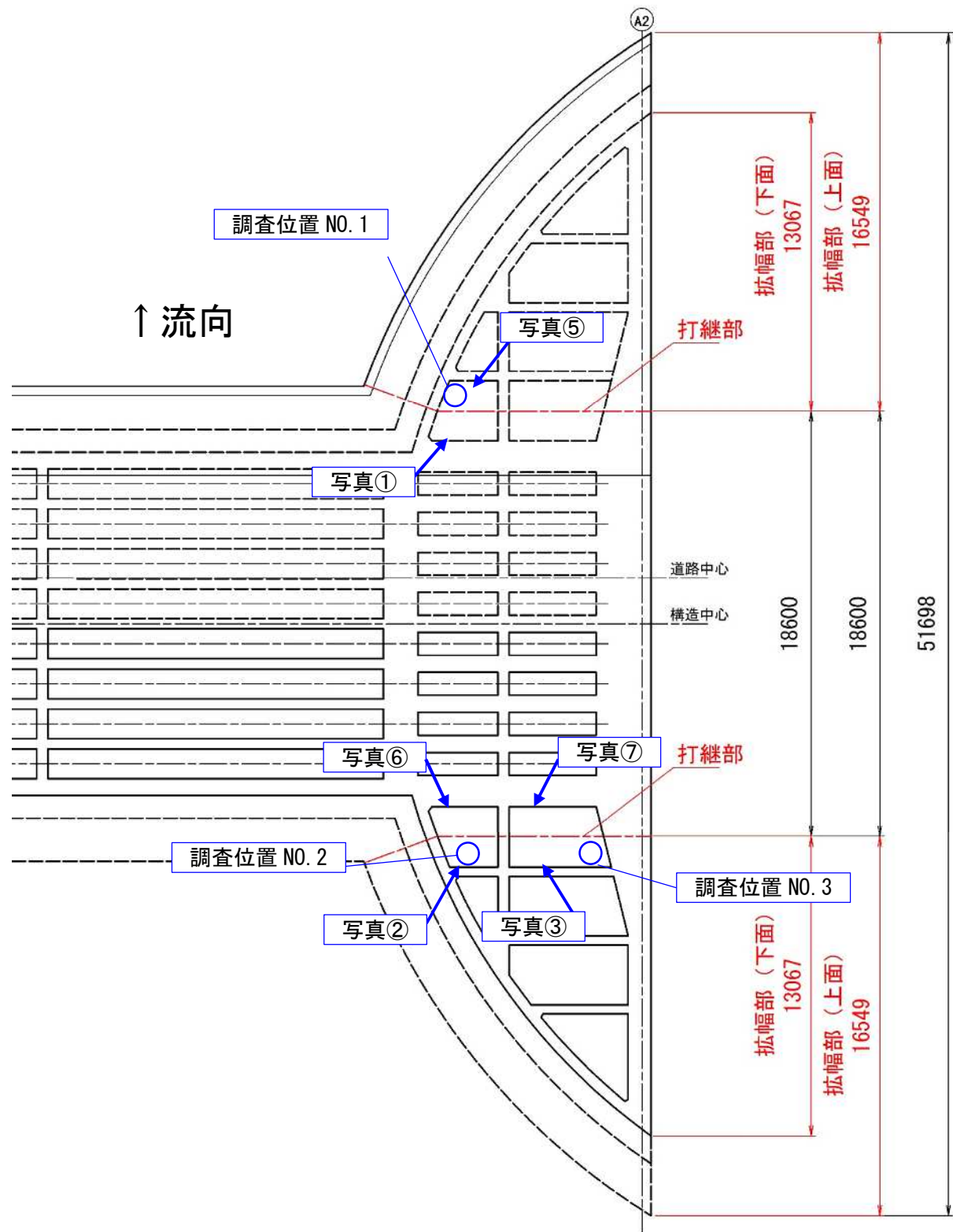


図 2-3-2. 平成 25 年詳細調査 内視鏡調査位置図

表 2-3-1. 平成 25 年詳細調査結果

	調査位置 NO. 1	調査位置 NO. 2	調査位置 NO. 3	コアの状況 (No. 3)
上流側側壁	 写真①	 写真②	 写真③	 写真④
下流側側壁	 写真⑤	 写真⑥	 写真⑦	 写真⑧
箱桁内状況	 写真⑨	 写真⑩	 写真⑪	 写真⑫

- 箱桁内部内視鏡調査およびコア採取によって以下のことが明らかとなった。
- ① 箱桁内部には木製の埋め殺し型枠が存在している (写真⑨, ⑩, ⑪)
 - ② 側壁に目立ったひびわれは確認されていない
 - ③ 側壁上位は水で湿った状態であり、型枠は全体的に水で濡れている (写真①, ⑥, ⑦)
 - ④ 底版上面は、一面に遊離石灰が堆積している
 - ⑤ コア上面に 1～2mm 程度の厚さで遊離石灰が堆積している (写真④)
 - ⑥ コア下面からひび割れが見られるが貫通していない (写真⑫)

出典：平成 25 年度橋梁交 第 2 号 立柄橋詳細調査・設計委託 報告書